

# 戦後 80 年 未来へ繋ぐ、平和への祈り ——

## 木の上の軍隊の監督が小林市を訪れる

太平洋戦争の終戦を知らずに、沖縄県・伊江島の木の上で2年間過ごした日本兵の実話に基づく映画「木の上の軍隊」の平一紘監督<sup>たいら かずひろ</sup>らが7月27日に小林市を訪れました。映画に出てくる兵士2人のうち、モデルの1人は小林市出身の山口静雄さん<sup>やまぐちしずお</sup>（享年78歳）。同日、平監督は市内にある静雄さんのお墓を訪れ、静雄さんの次男・輝人さん<sup>てると</sup>と共に墓前に手を合わせました。また、翌28日には市長を表敬訪問。平監督は「映画の感想で多かったのが『2人が帰った後、どこに帰ったのか見たい』というもの。お墓参りをして、輝人さんと一緒に手を合わせて、木の上で帰りたかった風景はここだったのかと思います、映画が本当の意味で完成した気がした」と話しました。山口輝人さんは「映画を通じ、平和を考える機会にしてもらえるとうれしい」と話しました。



## 機銃掃射があった西小林で慰霊祭

8月10日、西小林小学校グラウンドにある慰霊塔の前で戦没者追悼法要慰霊祭が開催されました。にっこばまちづくり協議会<sup>しもべつぷあきら</sup>（下別府明会長）が主催し、遺族や地域住民など約30人が参列。慰霊碑に花と線香を供え、戦後80年の節目に、平和への誓いを新たにしました。慰霊祭は、昭和20年8月10日に西小林国民学校の児童たちが西小林駅近くで米軍機の機銃掃射を受け10人が亡くなったことから、毎年開かれています。



## 西小林の機銃掃射が題材の演劇を上演

小林市を拠点に活動する劇団25馬力<sup>かみづる</sup>（神水流じん子<sup>こ</sup>代表）と都城市の劇団こふく劇場（永山智行代表）が8月9日と10日に演劇「小林三姉妹～幸せのパン種～」を上演しました。劇は西小林国民学校（現在の西小林小学校）の児童らが米軍機の機銃掃射で尊い生命を奪われた悲劇を知った劇作家の故・藤井貴里彦さん<sup>ふじいきりひこ</sup>が戦争の悲しみを忘れてはならないと同劇団のために書き下ろした作品です。物語は昭和30年代初めコバヤシ市、営業休止中のパン屋「タロのパン」を舞台に展開。機銃掃射で娘を亡くし、心身を病んだパン職人の父を支える母と三姉妹らが店の再開を目指す悲喜こもごもの奮闘劇に、訪れた多くの観客は笑い、涙を流していました。

